

12/30.34-28

トマホーク 数千億円の大軍拡

政府は10日に閣議決定した安保の文書で、「敵対地攻撃能力」(反撲能力)の保有を明記し、来年度预算に大量のミサイル配備に回った予算を計上しました。なんでも、米国製の東部艦隊巡航ミサイル・トマホークの取扱いを左に示す。これがいつから配備されるのです。しかし、トマホークは能力・コスト面で難点を抱えています。

卷之三

体以外にコンチナを運搬用機材、部品のババ、丸の工接続部や発射試験の費用などが含まれています。

卷之三

潜水艦から発射される英軍のトマホーク
＝5月31日(英国防衛ウェブサイトから)

◎ 雷明金言：周易智慧与应用

防衛省は2010年3月に「防衛省の2010-2020年中期計画」を発表。そこで、トマホーク導入経験ないしトマホーク運用を計畫上に削除した。しかし、これが何を意味するかは、本体の運用ですが、なぜか。国連憲章とは何別? トマホークが一つも搭載するための開拓器材の取得費としまして110-4億円を耗してしまいます。合計すれば330-4億円になります。これが何を意味するか。米軍はこの問題を難題です。

開戦から2年半の間に地上で行われた戦闘では、艦の能力そのものを發揮する大規模なものとなる可能性があらま。米政府は今年3月、英國にて「トマホーク武器システム」(TWS) の調査力を約3億6000万ドル(約4000億円)で発注した。TWSは航撃機用システムや駆逐艦などと組成され、ヘリコプターとトマホークを搭載するために不可欠なものである。トマホーク運用艦は複数となることが想定されるため、艦艇は数千億円に達する可能性があります。

- ・イージス艦搭載膨らむ費用
- ・大量同時使用で誤爆の危険

マホーク取得関連経費	
ミサイル本体	2113億円（2023年度）
関連器材など	1104億円（同）
イージス艦の改修	（2024年度以降に計上）
潜水艦の取得？	未定

トマホークの適用性はない。
他の駆逐方式で標的をひきつけると、
ペントを擲げたのに追がば
萬能砲ミサイルひとつでは、打ち扱いが
難い。なたる、大艦面対使用可能か
可能な限りあります。

他方、想定は難く、シナリオ
ト旅機機じ回路程一貫運行して
やや遅い飛行時間のため、空襲に
に繋がりませぬ。いづれか
め、適用する場合は大艦面対
使用が不可避で、少なくなく
強襲が目標を外れ、周囲指揮

したが、P.M.は短期間で格を米側に決定させてお
り、日本はこれまでも米国政
より割高な金額で武器を売
つけられてきました。P.M.
す。潜水艦まで手を付けね
ば、費用はまさに齊天井
です。

誤爆されるリスクは避けられません。